酒文化研究所

NEWS LETTER　　第 55 号 2017 年 7 月 25 日

【酒類産業とツーリズム】

ワインツーリズム先進地　ボルドーの取り組み

－　都市開発から始まる観光開発

ワイナリーでぶどう畑の豊かな緑に触れ、つくり手から直にワインづくりへの想いを聞き、景色のよいレストランで上質な食事とワインを楽しむワインツーリズム。将来性のある観光プログラムとして、欧米だけでなく世界中で脚光を浴びています。ワインツーリズムの特長は、ベースとなる農業（ぶどう栽培）、それを加工する酒造業、販売する流通業、提供する飲食業、交通サービスや宿泊などの観光業、さらにお土産などを販売する小売業など、地域振興策としてたいへん広い裾野を持っていることです。日本でも農工商を連携させた 6 次産業化の必要性が指摘されていますが、ワインツーリズムはその典型と言えるでしょう。

アメリカなどニューワールドワインで先行したワインツーリズム開発ですが、本場フランスでも 2009 年に国が主導して「ワインツーリズム評議会」が設置され、内容の充実したワインツーリズム地域を認定するようになりました。こうした動きをリードし、率先して推進してきたのは、ワインの最大産地であるボルドーです。今回は地域を活性化するために、20 年以上にわたって観光開発を進めて来たボルドーの取り組みをご紹介します。

【お問い合わせ】　本資料に関するお問い合わせは下記まで。

〒101-0032　東京都千代田区岩本町 3-3-14CM ビル

株式会社酒文化研究所（代表　狩野卓也）http://www.sakebunka.co.jp/

TEL03-3865-3010　FAX03-3865-3015

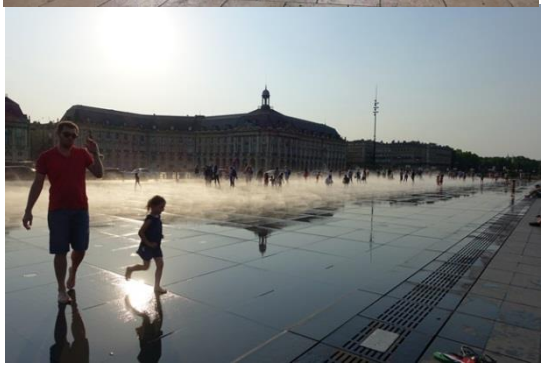
担当：山田聡昭（やまだ　としあき）E メール：yamada@sakebunka.co.jp

■世界遺産の街ボルドー

「ボルドーはこの 10 数年でとてもきれいになりました」と言うのは、ツアーガイドとしてボルドーで長く暮らす日本人女性のＡさん。以前は古い建物はみな煤けていて、町全体が黒っぽかったのだそうです。

変化が顕著になったのは 1990 年代後半です。シラク大統領時代には首相をつとめた、ボルドー市長のアラン・ジュペ氏が推進した都市計画は、歴史的な建物を修復・洗浄し、市内を流れるガロンヌ川の河岸を整備、路面電車を施設して旧市街地への自動車の侵入を制限し、町全体を美しく甦らせるというものでした。ガロンヌ川が湾曲して三日月のようになったところにあるボルドー港は、「月の港」と呼ばれ、18 世紀に世界的な貿易港として全盛期を迎えます。ボルドーには往時の都市計画が保存状態よく残っており、これを磨き上げたうえに 1960 年代に進められた新しい都市計画と融合させたことで、ボルドーの市街地のほぼ半分（1810 ヘクタール）が 2007 年に世界遺産に登録されます。歴史的景観を残す旧市街地が世界遺産に登録されるのは珍しくありません。けれども新市街地も含めて世界に評価されたのはボルドーが初めてであり、これだけ広いエリアが認定されるのも例のないことでした（伊藤毅「造形芸術としての都市」2008 年）。

世界遺産と言えばそれより前、1999 年にはボルドーワインを代表する産地「サン・テミリオン地区」がワイン産地として世界遺産に初めて登録されています。ボルドー市から東に 40km のところにあり、ローマ時代からのワインづくりの歴史と、サンチャゴ・デ・コンポステーラ巡礼街道沿いにあったことから教会や修道院が多く残っており、これらと周辺の村々のぶどう畑が世界遺産の対象となっています。



緑のなか電柱のない線路をトラムが走る。そばにはきれいになった旧市街、中心部のブルス広場前の広場は大きな水鏡となる観光名所

■ワインツーリズムの充実を促す協議会

近年のボルドーでは観光客の受け入れに熱心なワイナリーが増えています。ワインツーリズムを推進する行政の働きかけもあって、ゲストハウスやショップを充実させたり、見学だけでなくブドウの収穫体験などのイベントを盛り込んだり、有力なところには高級レストラン＆ホテルを併設したりするところも珍しくありません。こうした動きを促している制度のひとつが 2009 年に国が主導して発足した「ワインツーリズム協議会」です。

かつてのワインツーリズムは、ワイナリーを訪ねて試飲して購入するだけのシンプルなものでした。ワイナリーが独自におこなうだけで、他の観光プログラムと連携する意識は強くありませんでした。しかし、ぶどうの収穫やワインづくりなどの体験プログラムや、ワイナリーでの飲食・宿泊、複数のワイナリーを巡り歩き地域の文化に触れるメニューなどが求められるようになって、観光客の満足度を高めるためにワイン業界と観光業界が協力する必要性が出てきたのです。

ワインツーリズム協議会は、ワインの生産者や流通業者の団体、宿泊施設の団体、観光関係の団体などで構成され、フランス観光開発機構が事務局を務めます。主要な活動のひとつは「ワイン産地と発見」認定制度の運営で、ワイン生産者と観光業者の橋渡しをする立場で、ワインツーリズムとして充実度を吟味し、十分な内容と認めたものを認定する制度です。認定の条件は、①範囲は 30km 圏内（1~3 日間の滞在を想定）　②宿泊ベッド数 100 以上　③ワイナリー15 か所以上　であり、ワイナリー・宿泊施設・レストランなど地域で協力し合う施設名を明記しなければなりません。認定は 3 年間有効で、更新制となっています（JTB 総合研究所「フランスのワインツーリズムに見る新しい認定制度～Label Vignobles & Decouvertes~」2014 年）。そして、こうしたワインツーリズム推進の取り組みが、「シャンパーニュの丘のメゾンとカーヴ」と「ブルゴーニュのぶどう畑のクリマ」というボルドーと並ぶワイン産地の、新たな世界遺産に登録（2015 年）に繋がりました。

■ワインの殿堂「CITE DE VIN」

昨年、ボルドーには 600 万人の観光客が訪れました。ロサンジェルス・タイムズ紙は「2017 年訪れたい場所」の第 1 位にボルドーを選出し、フランス国内では「住みたい街ナンバー1」という人気ぶりです。ボルドーには世界遺産に認定された歴史的建造物やワイナリーを中心とした豊かな観光資源がありますが、人気の秘密はさらなる拠点整備と他を寄せ付けない観光プログラムの豊富さにあります。

ボルドーのシンボルとなった「CITE DE VIN」。ひと目見たら忘れない

ワインの専門書をゆっくり閲覧できるサロン（上）、大小さまざまなタイプのセミナースペースがあり、多彩なワークショップが開催される（中）、ショップには世界中のワインが並ぶ（下）

拠点整備を象徴するのは 2016 年にオープンした「CITE DE VIN（シテ・デュ・ヴァン）」です。ガロンヌ川に面して建つ高さこの施設は高さ 55m。最上階の展望台からはボルドーの街が 360 度見渡せます。ワインカラフェをモチーフにした独特のフォルムで、メタリックな輝きは未来都市を連想させます。しっかり見ると 10 時間はかかるという常設展は、ワインの製法や歴史にとどまらず、19 の切り口からワインにアプローチしています。 3 つのレストラン、ボルドーだけでなく世界中のワインを取り揃えたワインショップ、イベントやワークショップで活用できる多彩なセミナールームなど付帯設備も充実しており、ボルドーワインではなく「ワインの殿堂」としての風格を備えています。

■年に数回の大型イベント

ワインの観光プログラムも多彩です。年に何度か大きなイベントがありますが、最大のものは「ボルドーワイン祭り」です。2 年に一度、6 月に 4 日間開催されるこのイベントはガロンヌ川沿いにワインのブースが立ち並び、テイスティングパスを購入すると自由に試飲できます。昨年は期間中に 70 万人もの人が訪れました。ワイン祭りがお休みの年には一般向けの「ボルドー川の祭典」が催されるほか、プロ向けのワイン商談会「Vinexpo」が開催されます。今年 Vinexpo には 150 カ国から 2300 社が出店し、4 日間で 45000 人の酒類バイヤーとジャーナリストが来場しました。

また 9 月に開催されるメドックマラソンは世界中からランナーが集まる人気イベントで

す。給水所においしいワインが並ぶことで知られ、8500 人の出場者の多くは仮装して走ります。ゴールに近くなるほど上等なワインとフードが出るそうで、それを目指して走る人も多いのだとか。

■60 ものワインツアープログラム

日常的におこなわれている観光プログラムは、著名なワイナリーを車で巡るオーソドックスなものから、ガロンヌ川を船で下り自転車でワイナリーを訪ねるもの、ボルドー市内のワインスポットを短時間に訪れるもの、美食とワインをひたすら楽しむものなどがあり、その数はハイシーズンでは 60 にもなります。参加者の属性・人数・時間に応じて、ピッタリのものを選ぶことができます。ツアーのコーディネートは、ツーリストインフォメーションや CITE DE VIN の情報センターが対応してくれました。

世界最大級のワイン見本市「Vinexpo」大半はワインの出展だが、欧州への輸出を進めたい清酒・本格焼酎（日本酒造組合）が今年初めて出展した

ワインツーリズムが盛り上がりを見せるとともに、ワイナリー側も受け入れ態勢を充実させるようになりました。以前にも増して建物や庭園をきれいに整え、すばらしいワインを味わうのにふさわしいゲストハウスを設けます。訪問者は世界中から集まりますが、近年急増しているのはアジアからとか。特に中国の富裕層のバスツアーが毎日のように走っているとは、冒頭にご紹介したツアーガイド A さんの弁です。

文化・歴史的な背景と現代の都市づくりを融合し、ワイナリーとガロンヌ川という他にはない観光資源を活かして人々を魅了するプログラムを開発するボルドー。ワインツーリズムにとどまらず、長期的な視点に立った総合的な都市開発戦略の一環であることがお分かりいただけると思います。

ボルドーにはブドウ畑はもちろん、建物や庭園の手入れが行き届いた美しいワイナリーがたくさん（写真:シャトー・ラグランジュ）